



最近、夏のように暑い日が続いていますね。そんな中でも、園庭では子どもたちが汗をかきながら元気いっぱい遊んでいます。熱中症に気を付けて、こまめな水分補給や休憩を取りながら、この季節を元気に過ごしていきたいと思います。

そして、まもなく梅雨の季節を迎えます。雨の日が増えると、各クラスの窓辺には「てるてる坊主」が並び始めます。実はこのてるてる坊主、中国から伝わった風習が元になっているそうです。中国では「掃晴娘(そうせいじょう)」という、ほうきを持った女の子の紙人形を吊るして晴れを祈っていたのだとか。日本では、昔お天気祭の祭事を担っていたのが修行僧だったため、「坊主」の姿になったようです。なんだか面白いですね。

梅雨の時期は気温も湿度も高くなり、体調を崩しやすい時期でもあります。園では子どもたちの健康管理に気を配りながら、室内でも楽しく過ごせるような遊びや活動を工夫していきます。また、季節の変化に合わせて、衣類や生活リズムの見直しも必要な時期です。子どもたちが安心して毎日を過ごせるよう、園とご家庭で連携していけたらと思います。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

7月2日はプール開き(予定)です



プールでのお願い

子どもたちの心待ちにしていたプール開きの時期がやってきました。安全に気をつけながら、水に親しむことの楽しさを子どもたちに学んでもらいたいと考えています。

- 朝食は必ずとりましょう。
- 朝、必ず体温をはかり、健康状態をよく見てください。熱のあるときや体調の悪いときは入水できません。
- 雨天、気温の低い日、強風、行事のある日等はプールに入りません。
- 耳あかをとり、手足のつめを短く切っておきましょう。
- 病気にかかっている人は、早く治療をしておきましょう。特に健康面で心配なことがありましたら、事前にご相談下さい。
- 入水後は非常に疲れますので、休養をしっかりとりながら、体調管理に気をつけましょう。

子どもを自転車に乗せるときは、必ずヘルメットをかぶらせましょう！ 東京都生活文化スポーツ局より

- ①停車している自転車が転倒して、前部の幼児座席に乗っている子供が頭部を負傷する事故が多く発生しています。
- ②自転車乗車時はヘルメットを着用させましょう。帽子は代わりをつとめることができません。
- ③ヘルメットは、SGマーク等安全規格が付いたものを着用させましょう。
- ④着用する場合は、あごひもは正しく締めるなど使用上の注意事項を守りましょう。誤ったかぶり方では事故時に役に立たないこともあります。



6月の予定

- 3(火) 懇談会(うさぎ)
- 5(木) 保育参加・懇談会(ぱんだ)
- 6(金) 避難訓練
- 9(月) 音楽指導(幼児)
- 11(水) 歯科検診(全園児)
- 12(木) 調理保育(ぱんだ)
- 13(金) 身体測定
- 16~20 調理保育(らいおん)
- 20(金) 体育指導(幼児)
- 23(月) 視力検査(くま)
- 24(火) 虫歯予防集会(幼児)
- 25(水) 職員会議
- 27(金) お誕生会

7月の予定

- 2(水) プール開き
- 4(金)七夕会(誕生)
- 7~11 身体測定
- 18(金) おみこしかつぎ(らいおん)
- 19(土) SUNSUNまつり
- 23(水) 体育指導(幼児)
- 29(火) 職員園内研修
- 30(水) 避難訓練

衣替えについて

日に日に暑くなり、子どもたちも水を触ったり汗をかいたりして、着替えをする回数が増えています。園にある服を夏服にして、十分な着替えの用意をお願いします。またこの機会に、名前が消えていないか確認しておいてください。



湿気対策

雨の日が続くと、いろいろなものがじめじめしたままになってしまいます。カビも大変な問題です。台所の乾物は、できれば冷蔵庫に入れ、晴れた日にはできるだけ布団を干すなど、梅雨を乗り切る工夫をしていきましょう。なお、洗濯物が乾きにくい時期ですので、着がえなどは少し多めに用意ください。

困ったときの子育て相談室

河合隼雄・古平金次郎・滝口俊子 著 創元社

スポーツは観戦するのが好きで、テレビでもよく見えています。選手のふとした動作や言葉、それに解説者の言葉から、自分の生き方についてのヒントを得たりすることもあります。

すもうの解説で、「あの力士は、必死に突っ張っていますが、上半身に力が入りすぎていますね」と言うのを聞いたことがあります。たしかに、その力士はものすごく頑張っているのですが、下半身に力が入っていないと、結局はズルズルと後退して負けてしまうのです。

「下半身が大切」ということは、自分の生き方を考える上で、なかなか参考になることだ、と思ったのですが、これを育児の場合について考えてみると、どうなるのでしょうか。

子どもの教育に大変熱心なお母さんがおられます。そして、お父さんもそれに負けず劣らずの熱心さです。二人は、子どもを立派な子どもに育てようと、習いごとをあれこれとさせます。子どももそれに応えて頑張っているのですが、やはり疲れるのでしょうか。何やかやと無理を言うことも多くなります。

食事のときも、これはいやと言ったり、散歩をしても、もう疲れて歩けない、とすぐベソをかいたりします。お父さんもお母さんも、こんなときに叱りつけて、子どもの心を傷つけてはいけない、と思うので、何とかうまくあやして静めようと努力されますが、子どもはなかなか静まりません。そこで、結局は子どもの言うとおりで、いやなものはやめて、欲しいものを与えてしまったり、歩くのがいやなら、だっこをしたり、短い距離をタクシーに

どこに力をいれるのか



乗ったり。横から見ていても、「親は大変だなあ」とか、「子どものためなら、何でもしてあげているのだな」と思えてくるのですが、どこかしっくりしないのです。

子どもは成績のよい子になるかもしれませんが、実にわがまま勝手な大人になってゆくのではないのでしょうか。

このような子育てを見ると、両親の上半身に力が入りすぎていて、下半身がひよろひよろしている、などと思ってしまうのです。つまり、子どもにあれをしなさい、これをしなさい、と勉強のことばかり言うのではなく、両親が「何と言っても、あなたはこちらの子ですよ」と、どっしり落ち着いている、それで子どもは、ともかくこの両親といっしょにいるかぎりには安心だ、と思うこと、これが下半身の安定した親の姿ではないのでしょうか。

少しくらい成績が悪くても、少しくらいのいたずらをしても、「大丈夫、あなたはこちらの子ですよ」ということを言葉ではなく、直接に感じさせる、というのが「下半身の安定感」と言っているのではないのでしょうか。

この「安定」ができると、子どもが何かを欲しがったりするときでも、それがだめなときは、「だめ」とはっきり言えるし、そのことによって子どもの心が傷ついたりはないのです。まず、下半身の安定があって、そのあとでしつけをしても大丈夫なのです。

どうも最近の親御さんを見ていると、子育てに熱心なのはいいのですが、「下半身の安定」に欠けているように思うのですが、どうでしょうか。

SUN SUNまつり 7月19日(土)

2部制 乳児の部 15:00~15:50 幼児の部 16:00~18:30



羽村のお隣子

現在保育園では7月に行われる、SUNSUNまつりに向けての準備を進めています。幼児クラスでは縦割りグループで制作などをおこなっています。

【縦割り保育活動】 異年齢の子どもとともに生活することによって、年上の子どもは年下の子どもの面倒を見たり、年下の子どもが年上の子どもの真似をし、いろいろなことに自分でやってみようと思うなど、大人が関わる以外に子どもたち同士で育つことができます。

今年度も幼児の部に、「五ノ神囃子保存会」の皆様にお越しいただき、SUNSUNまつりを盛り上げていただきます。少し怖がるお子様がいらっしゃるかも知れませんが、羽村市の伝統と文化を楽しんでいただければと思います。